

コード	402060401
記入日	H21.6.13

事務事業途中評価表

課コード	115
課名	農林課
課長名	田本耕一
担当者	古川利久

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	町行造林保育事業	事業種類	単年度繰返事業
		事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	2
基本事業コード	40206	基本事業名称	林業の環境整備	目コード	4
事務事業コード	4020604	事務事業名称	造林事業費	細目コード	130
関連計画			法令・条例規則等	森林法	

計画 (PLAN)						※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。											
対象:誰、何を対象にしているのか						対象指標:対象の大きさを表す指標											
(対象1)町行造林						(対象指標1)1160ha											
(対象2)						(対象指標2)											
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入						活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)											
(全体)			(評価年度実績)			(指標名称)		(指標数値)		(達成率)		(達成率積算根拠)		(目標達成年度)			
*****			・人工的に植栽したヒノキ等の保育作業を行った。 保育作業面積 52.7ha 作業道 2,000m 除間伐回数 1回 枝打ち回数 1回 作業道開設 1回			***		***		***		保育回数÷計画した		*****			
						保育回数		1回		100%		保育回数		平成20年度			
						①		(達成率分析)事業計画のとおり、除間伐、枝打ち、作業道開設を実施した。									
						***		***		***							
						②		(達成率分析)									
目的:何をしたいのか						成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)											
人工的に植栽したヒノキを保育作業することによって、生長を促進させ、優良木の生産を行う。また、森林のもつ公益的機能(水源かん養、土砂流出防備)などの高度発揮へとつなげることを目的とする。						(指標名称)		(指標数値)		(達成率)		(達成率積算根拠)		(目標達成年度)			
						***		***		***		保育面積÷計画した		*****			
						保育面積		52.7ha		100%		保育面積		平成20年度			
						①		(達成率分析)計画していた保育作業面積については、作業を実施した。保育作業を行った森林とそうでない森林では災害時の公益的機能に大きな差が出る。									
						②		(達成率分析)									

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。											
	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 件	4	4	3	1	1					
	②										
成果指標	① ha	240	240	187	53	53					
	②										
総事業費 C (A+B)		千円	90,688	90,688	68,441	22,247	22,247				
直接事業費 A		千円	76,688	76,688	57,941	18,747	18,747				
人件費 B		千円	14,000	14,000	10,500	3,500	3,500				
内訳	従事職員数	人	2.0	2.0	1.5	0.5	0.5				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	32,799	32,799	24,201	8,598	8,598				
	起債	千円	37,500	37,500	29,200	8,300	8,300				
	その他	千円									
一般財源		千円	20,389	20,389	15,040	5,349	5,349				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	財産でもある町行造林の価値を高めるため必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	森林の保全だけでなく、災害時の公益的機能の面も考慮しているため事業を行う必要がある。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	町行造林の保育作業であり、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	木材の生長面、環境面共に期待どおりの成果がでている。担い手である森林組合の雇用にも繋がる。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	的確に現地にあう保育施業を行うことにより、森林のもつ機能の高度発揮が期待できる。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	せっかく植えたヒノキが立ち枯れ、細い木となり、材木としての価値がなくなる。環境面に与える影響も多い。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ● できない	理由	特殊な事業であるため、整理統合はできない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	事業費を減らすと補助率が実行経費となり、町の負担が増える。また、現在、労務単価が安いので担い手でもある森林組合が経営できなくなる。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	最小の人員で行っているため、削減することはできない。
	受益者負担は適正ですか。	はい ● いいえ	理由	受益者負担は発生しない。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	すぐには、収入等にはつながらないが、長期的な視点で、将来の伐木に優良木を販売できるために投資と考える。また担い手の対策としての継続事業である。
		有効性	環境面においても、事業費以上の効果があると考え。水源かん養機能、土砂流出防止など2次効果がある。
		効率性	事業費を削減することは、補助金の減少に繋がる。結果、町の負担分が増加することになる。また、基礎となる労務単価も安価なため、林業者の経営の安定も図られない。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	1次評価のとおり
		効率性	1次評価のとおり

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。